又一方日蘭關係ハ、彼ハ既ニ長刀ヲ引キ抜キ、我ガ權益ニ向ツテ颯爽ト切リ込ンデ居ル。官民一致シ總テノ抗爭ニ彼ノ用ヒ得ベキ總テノ力ヲ傾ケ今ヤ彼ノ行動ニハ辭令ガナイ。然ルニ之ニ對シテ我ガ態度ハ徒ラニ無抵抗主義ヲ採リ讓讓ノ美徳アランヤモ、何等爲ストコロヲ知ラス、一部ノ者ハ却ツテ彼ノ好餌ヲナメテ唯諾々トシテ私利ニ汲汲シテ居ル。彼ノ暴ニ對シ何ヲ以テ我ガ商權ヲ確保セントスルカノ行動モナイ。而モ政府當局ハ徒ニ穏便ノ態度ヲ強要スレドモ、然ラバ政府ハ扨也如何ニシテ之ヲ打開スル名策ヲ有スルカモ悟サズ、夫レノミカ之レヲ打開スルトノ信念モナク、其ノ確信ヲ示サズ、只ニ穏便ノ言ヲ弄シテ只々彼ノ逆鱗ニ觸レルヲ惧レ、之レヲ和ラクヲ待タントスルガ如キ無策ノ態度デアル。政府當局ノ斯カル無策ノ態度ガ反影シテカ一般業者ニ於モ如何ニ打開對策スル乎カノ眞摯ナル聲スラナク、實ニ當事者ラガ當面シテ居ル問題ニ無關示カノ如ク感ニ耐ヘナイ。

吾々ハ今日迄凡ユル機會ニ於テ閣下ノ對策急務ヲ主張シ各方面ヨリ現下ノ來ルベキ情勢ヲ說キ日蘭關係ノ凡テノ方面ヨリ情勢ヲ論ジ歸結スベキ將來ヲ說キ急速ナル對策樹立ヲ熱望シタノデアルガ、更ニ事實ヲ傳ヘ速カニ

我ガ對蘭ノ進メラレテ現下ノ苦窮打開工作ノ促進サレン事ヲ熱望シテ止マヌ

ナイ

二、日本ト東印度ノ關係ハ遠ク倭冠ノ活躍スル時代ニ起リ、相當南洋各地ニ發展シタ。交趾支那　シヤム　馬來　比律賓　爪哇　セレベス　ボルネオ等ニ多クノ史實ヲ殘シ今日デモ各地ノ日本村ノ名ガ殘ツテ居ル有樣デアル。徳川三百年ノ鎖國ニ依リ杜絶ヘ折角ノ基礎ヲ放擲シタガ之等各地ニ於テ活躍シタ權益ハ全ク鳥有ニ歸シ失ハレタ失地トシテ容易ニ歸リ難イ

和蘭ト日本ノ關係ハ三百年來ノ修交關係ニアリ、諸外國中デモ最モ深イ關係ニアルガ畢境日蘭三百年ノ修交ト雖モ全ク彼ノ領有シタ南洋諸島ト、關係デアツタ。兎モ角、斯クノ如ク日本ト南洋ハ古クカラ修交ノ間柄ニアリ之等ハ玆デ詳論スル迄モナク史實ニ明デアル。

明治政府トナツテ近代的交渉ニ入リ貿易關係モ除々ニ結バレタガ、來ダ論ズルニ足ラズ、一九〇一年即チ明治卅四年ニハ日本ヨリ僅カニ百五十八萬三千盾ヲ輸入シ同年日本へ四百八十三萬三千盾ヲ輸出シテ居ル關係ニアツタ。輸出入合計六百四十萬盾餘ニ過ギナカツタ。蘭印政府ヘノ貿易統ニ初メテ日本棚ノ設ケラレタルハ一八九一年即チ明廿四年デアツテ兩者

實質關係ガ表面化シテカラ斷ク四十五ケ年ニ過ギナイノデアル。日本デハ遲レテ明治廿一年貿易統計ニ東印度欄ガ設ケラレタ。

當時ノ在留邦人ハ殆ンド娘子軍デアツテ正當ナル發展無ク從ツテ民族的ニモ貿易的ニモ邦人ノ發展ノ時代デナカツタ。明治廿五年ニ三井物産スラバヤ出張所ガ設立サレ自ラ砂糖ノ輸出、日本品ノ輸入ヲ開始シ續イテ湖谷稻垣等ノ直輸入商ガスラバヤニ現ハレタ。明治廿八年調印敗府ノ調査ニヨレバ在留邦人ハ男二〇二人女七九五人合計九九七人ニテ八割ハ女デアツタ

日露大戰ノ結果ハ日本ノ大捷ニナリ玆ニ日本ノ海外發展時代來リ、所謂徒手空拳有意ノ青年ガ續々渡リ賣藥行商等ヲ爲シテ不便ノ奥地深ク活躍シ爪哇ノ事情ニ通曉シ今日邦人發展ノ素地ハ此ノ時代ノ不屈ノ努力ニヨリテ徐々ニ開拓サレタノデアツタ。明治四十一年領事職務條約ガ締結サレ翌年バタビヤニ帝國領事館ガ開設サレタ。而シテ有力ナル邦商モ次第ニ擴張スルニ至ツタ。大正元年選擧省命令航路トシテ南洋郵船ガ開始サレ是迄新嘉坡經由貿易ノ不便ガ除サレ直航貿易ニヨリテ益々彼我ノ貿易ハ好調トナリ邦人ノ發展次第ニ顯著トナリ娘子軍ハ後退シ正當ナル同胞ノ發展時代ニ轉入シタ、歐洲大戰青年勇士ハ大イニ帝國ノ海外發展ニ努力シタノデアル。斯クテ明治時代ヲ過キ大正年代ニ入リテ愈々邦人發展ガ顯著トナリ特ニ

洲大戰中ハ邦人發展及日本品ノ進出時代デアツタ・大正五年頃カラ銀行其他ノ貿易業者、企業家續々ト來リ會社商品ノ增加ハ著シク續々ト邦人ハ發展シタ大正五年六月調査ニヨレハ東印度在留邦人三九七四名約四千ニ達シ男ハ二千百八十九名ノ多數ヲ占メ金ク舊時代ノ娘子軍時代ヲ清算シ備カニスマトラ東海岸州ニ殆分其原形ヲ殘シタニ過ギズ、着實ナル發展ガ續ケラレタ・歐洲大戰中ノ加速的發展ヲ受ケテ大正九年ニハ日本ヨリ一億三千四百萬盾ノ巨額ノ輸入ヲナシ大戰中ノ寵兒デアツタガ戰後ノ恐怖ト歐洲品ノ再渡來デ邦品ノ甚ダシイ後退ヲ示シタ・歐洲大戰ノ好調ニ乘ツタ反動ニ依ル一清算時代デアツテ邦人發展態度ハ更ニ堅實ヲ加ヘタ。

大正十三年調査ニヨル在留邦人ハ合計四千二十九人デ大正五年ト差ナイガ之ハ主トシテスマトラ其他ニアツタ娘子軍ノ殘黨ガ清算サレ女五百名ノ減少ヲ見タガ男ハ五百名ノ增加ヲ見タ。全ク邦人ノ堅實性ヲ加ヘタモノデアツタ商業的發展ト共ニ農企業投資ガ大イニ誘致サレ爪哇ニ於テハ砂糖　スマトラニ於ケルゴム　其他コーヒー　茶　油　子　サイザル等ノ農企業ガ發展シタ大正末年ヨリ昭和時代ニカケテ東印度ニ於ケル邦人ハ商業的發展ニ拍車ヲ

カケ各地ニ於テ商業ニ從事シ發展スル數ヲ增シ昭和五年調査ノ東印度邦人ハ七千名ニ達シ男四千五百人女二千五百人トナリ最近デハ更ニ增加シテ來調査ザレバルモ八千人ヲ突破シテ居ルコト明カデアル。

今玆ニ兩國間ノ貿易推移ヲ數字ノ上ニ示スト次ノ通リデアル。

西曆	明治	日本ヨリ輸入(單位千盾)	日本へ輸出(同)
一九〇一	三四	一、五八三	四、八三三
二	三五	九八一	五、一二八
三	三六	一、一六六	二、三二〇
四	三七	一、一八四	一二、三六六
五	三八	一、三七二	一二、七五一
六	三九	二、二六七	一七、三〇七
七	四〇	二、七三一	一九、八二〇
八	四一	二、七九七	二三、二八六
九	四二	二、三二二	一八、七二六
一〇	四三	三、一三九	一六、九〇八
一一	四四	三、七三一	一一、五七一
一二	大正元年	四、九〇一	二一、四六一

一九一三	二	六、八〇〇	三五、八〇〇
一四	三	六、五九一	一九、一七九
一五	四	一二、八〇〇	一五、六〇〇
一六	五	二七、二〇八	一八、一〇七
一七	六	五四、八七九	三一、三五七
一八	七	一一四、六〇〇	七七、八〇〇
一九	八	七七、一〇〇	一八〇、九〇〇
二〇	九	一三四、一四〇	一四〇、〇〇〇
二一	一〇	八六、一〇〇	一〇九、〇九〇
二二	一一	五七、四九四	一一五、四二九
二三	一二	四九、六九三	一〇九、五七三
二四	一三	六七、〇六二	一一一、三五三
二五	一四	九〇、〇九八	九四、九〇一
二六	一五	八二、一七〇	八四、〇五五
二七	昭和二	九〇、一二〇	九四、三六二
二八	三	九三、六八三	四七、一七八
二九	四	一一四、八六九	四七、九七四

一九三〇　五　一〇〇、一五四
三一　六　九二、五五一
三二　七　七八、三三八
三三　八　九八、四〇四

以上貿易上ノ推移ハ全ク在留邦人ノ發展ニ正比例シテ進展シタコトガ判明スルノデアル。明治年間ニハ日本ヨリノ輸入ハ未ダ五百萬盾ニ達シナカツタ。明治中葉期カラ次第ニ初葉時代ノ娘子軍發展ノ後ヲ絶チ代ツテ眞摯ナル邦人ノ奮闘ニヨリ次第ニ邦品紹介ノ時代ヲ誘導シタ。次デ歐洲大戰中ノ飛躍チナシタノデアルガ當時蘭印市場ニ於テハ百萬餘ノ華僑ニ賴ラザルヲ得ナカツタ。從ツテ戰後ノ急慌ニ於テ邦品ノ地盤ヲ怨チ歐洲品ニ奪ハレ失墜シタガ配給網ノ完全ナラヌニ依ルトコロ非常ニ大キイノデアル。而モ其ノ上ニ大正末年ヨリ華僑ノ排日ボイコツトヲ再三喰ヒ邦人ノ發展ト邦品ノ地盤並ニ聲價ハ常ニ動搖ヲ免レナカツタ。其都度邦人ノ困難ハ非常ナモノデアツテ邦人ハ幾度カ生命ノ危險ニ見舞ハレレツゝ辛クモ孤軍奮闘シ邦人ノ勢力挽回ト邦品ノ地盤擁護ニ身命ヲ賭シテ働イタノデアツタ。内地ニ於ケル製造家及ビ輸出業者モ其苦杯ハ可成嘗メタ筈デアル。ソシテ斯カル場合ニ於テハ邦商コソ唯一ノ頼ミトシテソコニ商品ノ命脈ヲ保ツテ來タノデ

アツタ。然ルニ一度事件落着スルト苦難時代ノ邦商ノ有難味ヲ忘レテ之レヲ輕視スル傾向ニアツタ。再々華僑排日ノ結果ハ遂ニ在留邦商ノ華僑ニ對スル態度ヲ克明ニ清算シ從前多少共華僑ノ配給網ヲ利用スル考ヲ有シテ居タガ邦商ノ地盤堅固ナラシメルタメニハ邦商ノ小賣網ヲ完全ナラシメルコトヲ悟リ方向ノ一轉回ヲ爲シ邦人ノ發展益々堅實ヲ加ヘ其數ヲ加フト共ニ双脚ヲ延バサントスル時代ニ至ツタ。斯クシテ益々發展シ世界恐慌ノ苦境ニアリ乍ラ邦商ノ發展ハ益々著シクナリ且ツ貿易數字モ全ク改善サレルニ至リ目醒シイ進時代ヲ展開シタノデアル。若シ歐洲大戰後ノ大正末年時代ニ蘭印ニ於ケル邦人ノ數今日ニ達シ邦商ガ今日ノ活躍同樣ノ狀態ニアツタナラバカノ悲慘ナル轉落ノ見ザリシハ全ク考ヘ及ブトコロデアル。而シテ今日ノ日蘭關係モ起スルニ至ラズ邦人ノ地盤ハ甚ダ強固ナ飛躍ヲ示シテ居タコトモ想像ニ難クナイ。殘念乍ラ當時ノ邦人ハ其域ニ達シテ居ナカツタガ然シ其商權ノ堅固ニ死力ヲ盡シタ結果ガ今日ノ不幸ナル光榮ヲ勝チ得タノデアル。何レニモセヨ蘭印貿易ニ於ケル消張ハ全ク在留同胞ノ發展如何ニ左右サルコトガ餘リニモ明ラカナ事實デアル。日本品ノ商權ヲ死守スルモノハ只日本人ノミナル事ヲ深ク深ク認識サレネバナラナイ。斯クノ如キ偉キ努力ト犧牲ヲ願ミズ今日ノ

同胞苦境時代ニ何等我ガ貿易上ニ無關係ナル如ク大シタ打撃デナイ等ト考フルモノアルハ誠ニ遺憾千萬デアル。

以上ニヨリテ日蘭關係ノ史的展望並ニ邦人ノ發展過程ト兩國貿易ニ於ケル必須的立場ヲ承知サレルコトデアラウ。

三、玆一九三〇年以後ノ世界的ノ不況ハ實ニ從來ト異ル一事態ガ發生シタノハ新ニ日本ト蘭印ノ關係惡化デアル。歐洲經濟ノ破產狀態ニ加ヘテアメリカ經濟ノ恐慌ハ世界的大恐慌トナリ世界經濟ハ全ク均衡ヲ失ヒ不況ノドン底ニ落チタ。從ツテ歐洲經濟機構ヲ主幹トスル陣營ハ困憊ノ極度ニ達シ其中ニモ彼等ハ舊勢ト舊体面ノ維持ニ奔命シタ。和蘭本國及ビ歐洲經濟ニ賴ル蘭印經濟ハ根本的動搖ヲ來シ之ヲ保持セントシテ極度ノデフレーション政策ヲ敢行シタ。故ニ東印度ノ土產物輸出ハ不振ヲ極メ歐洲商品ニ依存シタ蘭人商店ハ全ク缺損相次グノミナラズ從前ノ商行爲ヲ續ケルコト不可能ノ狀態ニ立チ至ツタ。

蘭印ニ於テハ極度ノ減俸　增稅等ニヨリ大衆ノ消費ハイヤガ上ニモ減退シ更ニデフレーション政策ニ　エテ節約的傾向著シク、非常ナ人心不安狀態ニアツタ。斯カル間ニアヲリテ日本ハインフレーションニ轉向シ爲替安

及ビ製品コスト低下ニヨル好位置ニアリテ日本品ノ廉價ハ在留邦商ノ努力ト共ニ凡ユル分野ニ亙リ輸入ヲ促進シ歐洲品ハ安キ日本品ニ代用サレルニ至リ蘭印市場ハ日本品獨占ニ近キ盛況ヲ見ルニ至ツタ。卽チ我ガ大藏省發表ノ統計ニヨレバ一九三一年ニハ六千三百五十萬圓ナリシニ三二年ニハ一億萬圓ヲ突破シ三三年ニハ一億五千七百五十萬圓ノ巨額ニ達シタ。卽チ一億萬圓ノ我純受取勸定ノ市場トナツタノデアル。貿易ノ發展ト共ニ日本人ノ進出活躍亦目醒シク本邦品ハ安價且ツ優良ノ評判トナリ然カモデフレ！シヨン政策下ノ生活難ニアル大衆生活唯一ノ支持者トシテ翕然トシテ日本品ニ人氣ガ集マリ日本人商ハ活潑ヲ極メタ。一昨年來邦人小賣業者增加シ各地ニ於テ夫々人氣獨占ノ傾向ニテ小賣配給網ハ著シク伸張サレタ。從ツテ邦人輸入商ノ繁昌ハ勿論、其補助機關タル銀行、船舶會社、倉庫、保險會社等ノ邦人ノ諸銀行諸會社ハ繁榮振リヲ示シ蘭印全部ノ奬勵ノ的トナツタ。斯カル狀勢ニテ和蘭商品ノ後退著シク蘭商又營業方針ヲ變更シ日本品ニ走ルニ餘儀ナクサレタノデアル。而シテ急速ニ日本人取扱ヲ開始シ日本內地ニ仕入店等ヲ開設スルニ至ツタ。而モ邦人ノ蘭印ニ於ケル發展ヲ我ガ政府ノ強固ナル支持アル如ク曲解シ和蘭官民ニ於テモ政府ノ強力支持ヲ強

請スルニ至ツタ。銀行、船舶、其他補助機關ハ極力蘭商ヲ援助スルコトニナリ遂ニ日蘭貿易關係ハ全面的衝突ノ事態トナリ、彼等ハ日本人ヲ壓迫シ日本品ヲ其手中ニ壟斷セントスル行動ニ出デ遂ニ輸入制限令ノ公布トナリセメント　サロン　晒綿布等ノ輸入制限令ヲ發布シ蘭商ニ世界無比ノ保護手段ガ講ジラレタノデアツタ。斯クテ日蘭會商ノ開催トナリ此局面打開ニハバタビヤ會商行ハレシモ何等邦人ノ商權確保スルニ至ラズ不調トナリ、爾來蘭印政府ノ邦人壓迫ノ手ハ益々深刻ニシテ　鐵器、鍋、硝子製品、ボンド瓶等ノ輸入ヲ制限シ續々トシテ輸入制限ガ實施サレ日本品ハ邦人ノ手カラ蘭商ノ手ニ移リ今ヤ七千個師團ハ全ク死地ニ陷サレツツアル。

又其後ノ狀勢ニ就テハ大凡前述ノ通リデアツテ蘭印政府ハ今ヤ彼ノ民間ト一致結束徹底シ居ル爲メ　磁器スラ輸入製制限スントスル傾キニアリ益々橫暴ニ橫暴ヲ重ネル有樣デアル。セメントノ如キハ九割八分迄蘭商ノ手ニアリ果シテ外國品輸入量四十萬樽ガ何時迄日本品ノ權益トシテ保持サレルカ判ラヌ。ビールハ邦品ノ輸入勘キ年次ヲ追ヘベースニシ和蘭品獨逸品ヲ優待シテ居ル。綿布類ニアツテハ之レヲ蘭人商業會議所ノ六ケ所以上ノ入會會員ニ特別權利ヲ與ヘ所謂五大商社ヲ保護シテ居ル。其他ノ制限サレタ商

品ニ於テモ一トシテ正當ニ邦人ノ從前權利ノ認メラレタルハ無ク、長岡代表ノ歐國ニ對シ口約シタ二割五分ノ邦人商權ハ結局ニ於テ一割三、四分ニカ該當シナイ。

斯クノ如ク蘭印官民ハ一致協力シテ邦人商權破壞ニ猛進シツツアルニ不拘日本朝野ニハ其對策未ダ確立サレナイヨリカ蘭商ノ買付ヲ以テ本邦品ノ輸入ガ繼續サルゝトテ賞讃シ顧客蘭商アレバ何ノ支障アランカト云フ態度スラ見受ケラレルノデアル。

果シテ夫レ等ノ樂觀ガ妥當デアロウカ、彼等ハ今日日本品ヲ扱ヒツツアルガ何處マデモ日本品取扱ヲ堅持スル徒デアルカヲ見極メル必要ガアル。玆ニ一ノ例證ヲ擧ゲテ上述ノ考ヘヲナス製造家ノ反省ヲ望ムモノデアル

最近蘭印ヨリノ市場報ニヨレバ輸入日本**セメント**ガ販賣原價一樽三盾五〇仙デアルニ不拘之ヲ市價八盾五〇仙ニテ賣却シ一樽當リ賣ニ五盾ノ利益ヲ占メテ居ル。驚ク勿レ百四〇パーセント以上ノ暴利ヲ貪ツテ居ル。而モ彼等ノ獨占下ニアレバ市價ハ品上放題ニテ消費者ハ非常ナ高價ノモノヲ買ハサレテ居ルノダ。蘭商中ニハ極ク僅少ノ輸入權ヲ有スルモノデ此ノ利益

ニ與リ競手ノモノガアルト云フ月額百樽セメント輸入權ガアレバ恐ラク一時間カ三十分ノ取引ヲ以テ五百盾ノ利益ヲ占ムルコトガ出來ル。斯クノ如ク不法ノ商法ヲナシ大衆ノ利益ヲ蹂躙シテ恥チナイ彼等デアル。從ツテ彼等ガ今後日本セメントヨリ五盾ノ利益ヲ占メザレバ日本セメントヲ輸入セヌコト明デアル、若シ他方面ニ日本セメントヨリ將來利益擧良キモノ現ハレレバ當然嚴履ノ如ク日本セメント輸入ヲ捨テルデアラウ。將バダンセメント會社ヲ充分ニ太ラセテ將來日本セメント會社ヲ完全ニ放棄スル工作ナシトモ考ヘラレナイ。

更ニ續サロンノ一例ヲ擧ゲレバ日本ヨリノ輸入販賣原價一コーデ四盾ノモノチ市價八盾四十仙ニテ賣却シ一コーデ四盾四十仙ノ暴利ヲ喰ツテ居ル。然ルニ關商ハ日本內地ノ製造家ニ對シ如何ナ仕入振ヲシテ居ルカ。斯クノ如クシテ彼等ハ日本品ノ騰價ヲ保持スル商社デアラウト云ヘルデアラウカ

是等ハ卑近ノ一例ニ過ギナイガ今日ノ如ク邦品ガ全ク彼等ノ掌中絕對權握ラレル時、其筆握サレタモノハ憑ク斯カル極ヒノ下ニ彼等ニ飽タナキ暴

利テ與ヘルノミデ邦人ノ輸出商モ製造家モ職工モ彼等ノ奴隷化セザルヲ得ナイ。而シテ彼等ノ懐中ヲ充分ニ富マセテ彼等ノ自國品ノ改善ト進出ニ財源ト時間ヲ與ヘルノミデアツテ其時コソ日本品ハ歐洲品ヨリ品質悪シク値段ハ割高デアルトノ不平ヲ買ハサレ市場ヨリ追出サレルコトハ吾々ハ過去ノ經驗ニヨリテ餘リニモ此ノ悲慘事ガ克明ニ浮ビ出サレルノダ。

壓迫セル劣下ノ間題ニ對策ナク放任シ或期間經過セバ商權ヲ喪失シタ在留邦商ハ無力トナリ彼等ノ爲スガ儘ヲ傍觀スル外ナク彼等競走的立場ニ立チ得ナイ。且ツ邦品ノ商權ヲ取守シタクモ出來ナイ狀態ニ置カレル。斯クシテ我ガ關印貿易ハ現下ノ儘デハ枯死スル外ナイ狀勢ニ置カレテ居ルノデアル。七千同胞ヲ失ヒ一億五千萬圓ノ貿易ヲ失フ日ガ眼前ニアルノダ。此ノ狀勢ガ何故關商ノ買付ヲ有難ガリ唯々諾々日本ノ製造家並ニ關商關係ノ輸出商ニハ判ラヌデアラウ

セメントノ如ク彼等ニ暴利ヲ與ヘテモ關商ニ賣リタイノカ、吾々ハ斷ジテ製造家ノ反省ヲ促サネバナラヌ。關商ノミニ我ガ商品獨占權ヲ

與ヘルコトハ難倫ニ與ヘル以上ノ危險ガアル。日本ニ製造サレ日本人ノ手ニヨリテ製造サレル日本品ガ益ク日本人ガドウスルコトモ出來ズ甘受セネバナラヌトイフ法ガドコニアラウカ。之レニ對抗スル方策ガ日本ノ當業者ニ起ラヌトセバ吾々ハ只天ニ向ツテ哭泣スル外ハナイ。

在留七千同邦ノ活躍發展ニヨリ今日ノ地位ヲナシ幾多苦難ヲ突破シテ得タ商權デアル。在留同邦ガ自己ノ努力ニヨリテ獲得シタ商權ノ實勢力ヲ確保シ關商ト對等ノ立場ニアツテコソノミ邦人ノ聲價モ權益モ確保サレルノデアル。吾々ハ斷ジテ此ノ事實ヲ曲ゲラレナイ吾々ハ關商ノ取扱ヲ拒絶スルモノデハナイ。今日築キ得タ邦人ノ商權ヲ確認セシカ相共ニ進マントスルノデアル。吾等ノ商權ヲ奪ヲテ彼等ノミ獨占セントスル行爲ニ斷乎トシテ反對セネバナラヌ

我ガ政府當局ハ軟弱的態度ヲ以テ根本的對策ノ如何ナルモノヲ有ス
ヤ判リ難イ。

従ツテ政府ノ工作ヲ待ツテハ何時ノ日解決サレルヤモ知レナイ問題ハ左様ナ安閑ダルモノデナイ。火ノツイタ刻下ノ問題デアル。

此ノ苦狀ヲ打開シテ蘭印ノ態度ニ酬ヒルユハ今當事者各方面ノ一致結束シ事ニ處スルヨリナイノデアル。彼ハ邦人ノ輸入權ヲ制約スルニ於テハ吾々ハ日本ニ於テ蘭商ノ輸出權ヲ制約シ以テ彼ニ對スルヨリ策ナシト信ズル。日蘭貿易關係ノ全テガ此際大局ヲ觀察シ將來ヲ遠觀シ一致ノ行動ヲ以テ日蘭關係ノ根本的調整ニ努力サレルベク反省サレン事ヲ切望シテ已マナイ。只ヽ當業者ガ強固ナル結束ヲ以テ輸出統制ノ斷行ニ　進シ政府ヲ督勵シ一時モ速カニ之レヲ具現セシメ在留七千同胞ヲ危地ヨリ脫却セシメルト共ニ我ガ商權ヲ確保セネバナラヌ。時運レバ其效果モ滯ク最前線ノ商權枯シテ後ニ如何ナル名案アラウトモ何ノ死者ニ活ヲ入レラレヤウ。

只現下ノ危急ニ當リ我ガ堅固ナル輸出統制ニヨリテ蘭商ノ獨占ヲ阻止スルヨリ外ナキモノト確信シ當業者各位ノ奮起ヲ要望スル次第デアル。我レ時ニ首ヲ斷タレントスルノ躊躇ガアラウカ。

敢テ各位ノ急速ナル奮起ヲ促シ輸出統制ノ斷行ヲ提唱スル所似デアル。

日蘭會商ト昭和十年一月迄ノ經緯

一、日本人ノ濠領印度發展ノ概略

大正三年ノ歐洲大戰前迄ハ濠印ニ於ケル在留邦人ハ三千人內外デ其內容モ未ダ貧弱デアリ輸入商小賣商トシテ堂々ト經營シテ居タ者ハ指ヲ以テ數フル程度ニ過ギマセンデシタ。ソレガ大戰中ヲ好機會ニ著シク發展シ在留民七千人トナリ貿易上ノ基礎モ出來タノデアリマス銀行船會社等ノ補助機關モ農園其他ノ事業モ此時代ニ築カレタモノデアリマス。

大戰後ハ恐慌デ一時衰ヘマシタガ大正十年ニハ世界的ブームトナリ又二三年毎ニ大不況ニ襲ハルル等變轉極リナキ市場ニテ在留同胞ハ幾多ノ苦闘ヲ重ネ日本品ノ市場開拓ニ書闘努力シテ來タモノデアリマス特ニ最近數年間ハ世界的恐慌時代ノ襲來ニヨリ濠印亦非常ナル不況ニ陷リ一般的ニ輸出困難ニ伴レ輸入モ減退一方ニテ有史以來ノ不況不景氣ノドン底ニアリマシタガ日本品丈ケハ一九三一年ヨリ輸入增加スルノミデ

一九三一年	六、四五〇、〇〇〇	一九三二年	一〇、二五一、〇〇〇
一九三三年	一五、七四八、〇〇〇		

ノ激增振ヲ示シタノデアリマス。

其原因ハ滿洲事變後特ニ西洋人ノ親日感情好轉ニアリマスガ具体的原因ノ重ナルモノハ圓爲替ノ暴落（約三分ノ一ニ下落）其次ギハ船舶業者ノ競爭ニヨル運賃ノ下落デアリマシテ日本製造工業技術發達ニヨル品質ノ優秀ト低廉ナ事デ換言スレバ品ガ良クテ値段ガ安イト云フノデ蘭印ノ消費者ハ日本品ヲ非常ニ歡迎シ好ム樣ニナリマシタ。

而シテ同ジ日本品デ買フナラ日本人ノ店ニ行キタガルノハ人情デ邦人ノ商店ニハ千客萬來黒山ヲナシソレハ々々々非常ナル繁昌振リデアリマシタ從ツテ日本人ノ店ハ各所ニ增加シ日本人ハドシ々々來住シテ來ルト云フ譯又小賣商ヤ輸入商ノ發展ニツレ日本ノ銀行船會社、保險會社、倉庫會社等何レモ非常ナル繁昌振リデアリマシタ。

即日本ノ商社ハ蘭印全部ノ羨望。怨嗟ノ的トナツタノハ事實デアリマス一方爪哇人ハ輸出物產ノ不振ニ陷リ非常ナル不況ニアル上蘭印政府ノデフレーシヨン政策ニヨル減給又ハ增稅ニヨリマシテ一方ナラズ生活ノ脅威ヲ受ケ居ル窮狀デスカラ日本カラ安値且優秀品ノ供給ヲ受クルコトハ恰モ慈雨ニ等シイモノデ吾々ノ救ノ神ト云フ觀念ヲ持ツニ至リ又事實其ノ通リデアリマシタ從ツテ若シ日本ト云フ國ガナカツタナ

ラ矢張リ和蘭ヤ歐洲ノ高價ナモノヲ餘儀ナク買ハサレル事態ニ置カレ彼等ノ生活破產ガ招來サレルヨリ外ナイモノガ日本ノ御蔭デ救ハレテキルトノ認識ヲ強メ一段ニ親日態度ヲ加ヱル樣ニナリマシタ。

二、輸入制限令發布迄

日本品ハ前述ノ通リ增加一方、是ニ反シ和蘭品ヤ歐洲品ハ減退シマスノデ和蘭人輸入者モ營業方針ヲ日本品取扱ニ轉向スル樣ニナリ充分豐富ナ資金ヲ以テ活躍シマシタノデ一九三二年ノ如キハ和蘭人四割五分日本人三割五分其他二割ト云フ割合ノ取扱量ニ上リマシタ處ガ日本品ノ取扱ニ就テハ仕入其他日本人ノ方ガ上手デ其上日本人ハ生活費ガ安値、努力振リモ異ナリ卽能率上相當ノ差ガアリマスノデ日本人トハ到底太刀打ガ困難、蘭人ハ如何ニ多量ノ日本品ヲ取扱ツテモ却ツテ損ヲスルト云フ結果デ和蘭人トシテハドウシテモ和蘭政府ノ力デ日本人ノ取扱ヲ少量ニ限定スル樣ナ蘭人保護ノ法律ヲ必要トスル樣ニナリマシタ。

和蘭商人ハ盛ンニ保護法案ノ發布ヲ政府ニ懇願シタモノデス。

ソコデ蘭印政府ハ官民間ニイロイロノ機關ヲ設ケテ考究スル事トナリ

マシテ其結果考ヘタ事ガ夫ノ通リデス

第一ハ政治的デ

即一九三一年ノ満洲事変以来土人ガ特ニ日本品ニ就テ日本人ニ依ンガリ日本ノ御蔭デ生活出来ルト云フ観念ヲ持ツ様ニナツテ居ルカラ此上日本崇拝トナツテハ大変ダ。日本品丈ケガ此ノ市場ヲ覚スト云フノハ経済的ノ占領デアリ即政治的ノ占領トナル訳デアリマス。

ソシテ日本人ガ段々増加スル事ハ益々日本ト關係ヲ深クシ遂ニハ第二ノ満洲問題惹起ノ虞レガ深クナル事デアリマス

第二ハ経済的デ

即和蘭ノ商人ヲ救フ事、貧弱ナガラ國内産業保護ノ事ヲ目的トシタノデアリマス

安価、優秀ノ日本品ガ關印ニ於ケル必要性ハ判ツテキルガ日本人ノ取扱量サヘ限定シ置ケバ遂ニハ日本商人ハ引揚ノ外ナキニ至ルベク自然日本ヨリノ輸入額ハ關印ノ手中ニ收メ得ル事トナル。サスレバ日本ニ於テノ仕入レノ際蘭人ノ思フ儘ニ安ク値切リ得ル事ハ勿論關印デ小賣ノ時モ意ノ儘ノ値段デ賣ル事ガ出來ル。又關印ヘノ輸入、

ヤニヤ關印政府ヘ當局ニトロトロヤツテ
時關商人ヘ急ヘニ樂觀對策ヘ變更セ埋帶ヤ
ル。

原因セ色ニ關家ヌル對セ關人發態ク出來セ急ニ行ヒアン
スルイ延テ結果ヤ時期遅ルヽ氏ヤ日本人ヘ
流太ル打ル困難ノ關人ヘ時間ニ色ニ日本品セ來ヘテ賣
ル事ノ出來ヤ延セリ時間ニ色ニ日本人イハ國
ヘ原因ニ從セヘ計人其時日本人ヘ出張費セ使
日本人三時正代其儘ニ置イ居テ關會ヘ原料量ニ主ヲアル事ヲ
當セ資金セ延セ活躍セアルヘヤ一次三ノ年ヘ時關人國時正代
ヘヤ時關人數人皆チ警察ニ捕セ日本品原因ニ關係スル對ヤ次第
日本品ハ關係ヘ跡ヲ斷一次ニ是ヘ買ヘ時關品ヤ關係ハ急激ヘアス
ニ關人時期合理的

ヤルイヘ關聯セ起ヘ一端ニ踏日感情セ時ニ日本ヘ時運ヤ逆ハヌヤ
好參ヘ出張所設置セヘルヘヤリ良セトガヘ人セ
セ決定セ時關ヤ期限ヘ高野セテヘセ繪畫セヤ買ハヤツル事實ニ關ス
ル。

小賣ノ統制ヲ和蘭商人ノ手中ニ收メテ置ケバ如何ニ日本製ノ商品ト雖モ航海中ニ船積ヲ變ヘル事ガ出來ルシ和蘭商品ノ様ニシテ土人ヲ欺シテ賣ル事ガ出來ルバカリデナク後日眉書安定ノ節日本品ノ輸入ヲ止メ和蘭品ヤ歐洲品ヲ輸入シテ小賣スル際現狀ノ儘制デ御時ニ變更スル事ガ出來ルト云フ譯デアリマス。

斯様ニシテ日本人ノ關印發展ヲ阻止シヨウトスル旺盛ナ作意ガ輸入制限令ノ發布トナリマシタ次第デアリマス。

和蘭領ハ表面上ハ貿易ノバランス（輸出五〇〇〇〇〇〇〇〇）ヲ調節スルタメト世界的ノ通貨薬ヲ理由トシテ居リマスガソレハ勿論此ノ機會ニ輸出不振ノ彼地物産ヲ出來ル丈ケ買ハセタイ下心ハアリマセウガ實際ノ主ナル理由ハ日本人發展阻止ハ勿論證據ノ良イ日本人排斥法デ最近其ノ排斥振リガ益々露骨ニナツテ來テ今年八月下旬ニハ從業員入國制限令ヲ發布シマシタ

三、制限令ノ發布ト日蘭會商

ソコデ如何ニ輸入制限ガ行ハレタカヲ見マスニ第一ニ輸入制限即チ取扱制限ノ行ハレタモノハ一昨年六月ノセメントデアリマシタ

是ハ輸入ノ九八、五%ガ和蘭商社ノ手デ輸入サセ日本人ニハ僅カニ一、五%ヲ與ヘタノミデ此制限ニヨリ和蘭側ハ取扱制限ノ有難味ト甘味ヲ知リ且ツ日本ノ御人好シモ充分体得シマシタ様デアリマス。

昭和八年九月十三日　非常時輸入制限令ガ和蘭本國ノ議會ヲ通過シテ發布サレマシタ。

即「蘭印産業保護ノ目的ヲ以テ必要ニ應ジ總督ハ相手國ノ事情ヲ何等考慮スル事無ク一方的判斷ニ於テ輸入品ノ制限ヲ行フコトガ出來ル」

十一月下旬　蘭印各地蘭人商業會議所ハ日本人排斥請願書ヲ蘭印政府ヘ提出シ九月ノ輸入制限令ノ徹底的實施ト共ニ銀行、保險、船舶、倉庫等ノ日本補助機關ノ撲滅ニツキ極端ナ意見書ヲ提出シマシタ

十二月三日ニ至リ麥酒ニ對スル制限令ガ發布サレマシタ

麥酒ハ一九三一、三%　一九三二、一七%　一九三三上半期六〇%

一九三三下半期九〇%ノ日本麥酒輸入量ト云フ躍進振デアリマシタノデ日本麥酒ノ餘リ輸入サレテヰナイ一九三〇年一九三一年ヲベースニシ割當基礎ヲ定メタノデ本邦品ハ僅カ一割内外ニ過ギナイト云フ様ナ彈壓ヲ喰ヒマシタ。

昭和九年二月十三日　サロン人絹ニ對スル制限令

日本品輸入ノ少量ナル一九三〇年ノ輸入量ニヨリタルニ付一九三三年ノ六十分ノ一ニ制限サレマシタ。

二月十六日　大豆ノ輸入禁止令ガ發布サレマシタ。

三月　一日　酒精布ニ對スル制限令ガ出マシタ。

比率ハ一九三三年ノ輸入制當デアリマスガ東印度ニ六ケ所ノ支店ヲ有シ其支店ガ其地ノ商業會議所會員タルモノニ對シ會國印輸入量ノ八割五分ヲ與ヘマシタ實ニ斯カル特權ヲ受ケル會社ハ關商中ニモ僅々其大ノ割ニ過ギナイノデアリマシテ其他ノモノ全部ニ對シ一割五分ヲ附與スルト云フ如キ誠ニ世界珍無類ノ輸入制限令ヲ出シマシタ、斯スルニ關印政府ノ制限令ニハ比率ニ一定ノ基礎ガアリマセンピールノ如キハ一九二九、一九三〇、一九三一ノ如ク日本ピールノ過出以前ノ年度ヲ採リ綿布ニ於テハ一九一五年以來引續キ日本人取扱多量デアリマスノデ取扱年次ヲ基礎トシナイデ大商業會議所ノ會員タル會社ニ對シ八割五分ヲ與フルト云フ機ナ言語道斷ナ比率デ全ク和蘭人保護ノ爲メ關印政府ガ如何ニ強圖ナ面カモ無法ナ方針カラ出發シテ居ルカト云フコトハ餘リニ判然タル事實デアリマス。

以上ノ例證ハ一點ノ疑問ナキ眞相ヲ雄辯ニ物語ツテ居ルノデアリマス
上記ノ樣ニ引續キ制限令ノ發布デ情勢惡化ノ眞只中ニ置カレマシタ在
留同胞ハ殆ンド蘭印ヨリ放逐サレントスル不安ニ焦慮シマシテ駐在領
事ヲ動カシ政府ヘ歎願シマシタ。
外務省ニ於キマシテモバタビヤ總領事及ヘーグ公使ヲ通ジテ嚴重ナル
抗議ヲシ蘭印ノ反省ヲ促シ結果遂ニ四月ニ入リ日蘭會商開催ノ事ガ決
定シマシタ
日本政府モ事ノ重大ナルニ鑑ミマシテ現役外交官ノ最古參デアル長岡
大使ヲ首席代表ニ任命シマシタ又會商開始ノ條件トシテハ會商中ニハ
新規ノ制限令發布ヲナサヌ事ヲ取極メタノデアリマス。
五月中旬長岡大使ハ外務省、商工省、大藏省ヨリノ夫々隨員ヲ帶同シ
テ會商ニ向ケ出發シタノデアリマス。

四日　蘭　會　商

六月初代表部ハ會商地バタビヤニ着キマシタガ長岡代表ノ到着ノ際バ
タビヤブリオタ港ニ於キマスル各新聞記者ニ對スル態度ヤ會商開會當
日ノ聲明、其他何レモ蘭印政府ヲ威壓スル樣ナ堂々タルモノデアリマ

シテ特ニ彼地土人住民ノ熱烈ナル好感ト敬意ガ我ガ代表部ニ對シ表ヘレマシタ事ハ非常ナモノデ「流石ハ日本ノ代表ダ如何ヲ和蘭モ屈服セザルヲ得ナイデアラウ」會商ハ日本ノ勝ダ」ト云フ事ガ專ラ評判デアリマシテ從ツテ在留同胞モ非常ナ期待ヲ以テ秘カニ喜ンデヰタ次第デアリマシタ處ガ和蘭側トシテハ豈ニ遺憾千萬ナ有樣デ何ントカシテ日本ノ威壓態度ヲヘコマサナケレバ土人ニ對スル威嚴ガ保テヌト感ジマシタモノカ七月ニ至リマシテ會商開催當時ノ紳士協約ヲ無視シマシテ突如陶磁器輸入制限令ヲ發布シタノデアリマス、是ニ對シマシテ長岡代表ハ嚴重ナル抗議ヲ繰返シマシタガ和蘭側ハ如何ナル法令ヲ出ストモ主權者ノ自由デアルトテ取合ハザル態度ヲシマシタノデ長岡代表ハ日本側營業者即陶磁器代表者ト色々懇談シタノデアリマス當時日本ヨリ來テ居ツタ各商品營業者ハ何レモ會商經過ヲ關心シテ四、五十名ガバタビヤニ滯在シテ居ツタノデアリマス、ソコデ代表部ト營業者ガ色々熟議シマシタ結果日本ハ安イ商品ヲ賣ツテヤツテ居ルノデアツテ決シテ蘭印カラ買ツテ貰ツテ居ルノデハナイ、何故カト云ヘバ歐洲品ノ原價ハ日本品ノ原價ヨリ三倍乃至五倍高價デハナイカ夫レダケ

東印度大衆生活ニ寄與シテヲルノデアル、ダカラソレガ判ラヌナラバ賣ツテヤラヌ事ニスル事ダト云フ打合セヲシマシテ陶磁器ノ本場デアル名古屋ノ製造家並ニ輸出圖ハ直ニ之ニ從ツテ結束シテ不賣同盟ヲ決議シタノデアリマス、此結果ガ早速蘭印ニ於キマシテハ商人ハ品不足ヲ豫想シテ賣止メスル、値段ハ暴騰スルト云フ決果ニナリマシテ消費者ハ非常ニ不自由、不便、不利トナリマシテ各所ニ不滿ノ聲ガ起ツタノデアリマス。

元來一昨年九月輸入制限令法案ガ蘭印議會ニ提出サレマシタ際土人ノ有力議員達ハ蘭印政府ノデフレーションヲ政策ニ背馳スル政策ダト云フテ反對シタノデアリマス、何故カト云ヘバ輸入制限令ハ物價ノ値上ヲ來ス有力ナ材料デアルカラ土人大衆生活ヲ脅威スルモノデアルトノ理由デアリマシテ政府ハ之ニ對シマシテ決シテ物價ノ上ラヌ方法デ實行スルカラ是非贊成セラレヨトノ言質ヲ與ヘタノデアリマスソコデ此度ノ名古屋陶磁器ノ不賣電報ニヨル値上リニ對シマシテ土人議員ハ直ニ蘭印政府ヲ難詰シマシテ又和蘭商人モ利益多キ此種取引ガ不可能トナルノデ蘭印政府ニ撤廢方ヲ迫ルト云フ譯デ輿論ハ喧囂トシテ收拾スル

能ハザル狀態ニ陷ツタノデアリマス一方長岡代表ハ引續キ抗議ヲ止メナカツタノデ蘭印政府ハ遂ニ議會通過後一ケ月ニ達シナイノニコノ制限令ヲ撤回スルニ至ツタノデアリマス、コレハ全ク日本ノ陶磁器當業者ノ堅固ナ結束ノ效果ヲ示シマシタ立派ナ例證デアリマス

卽製造家ガ結束シテ我利ヲ捨テ國家本位ノ態度ヲ立テテサヘ臭レレバ蘭印側ガ降參スル適例ヲ示シタモノデアリマス。

九月ニ至リマシテ愈々會商進行ノ域ニ達シ樣トシテ居マシタガ蘭印側ハ海運問題ヲ會商ニ入レナケレバ一般會商モ決裂ノ外ナイトノ橫槍ヲ突然入レテ來マシタ元來船舶問題ニ就キマシテハ昨年五月開始前當業者カラ外務省ニ陳情シマシテ船舶問題ニ就テハ日本和蘭當業者間ニ日本爲替航路同盟ト云フ航路同盟ガアリマシテ總テノ問題ハ全同盟デ協議シテ居リマスノデ兩國政府間ノ會商ニ持出ス必要ハナイ特ニ船舶關係ハ日本爲替關係ノミデナクアメリカ、滿洲、歐洲其ノ他何レノ地方ニ於キマシテモ航路同盟ガアリマシテ同盟會員ノ權利ニヨツテ同盟ハ運用サレテ居ルモノデアリマスカラ日本ノ樣ニ各同盟ニ關係シテ居ル以上各國政府間ノ協定ニ變更スルコトニナルト莫大ナル不利益ヲ招來

ケラ附議スル事ニシテ會商ヲ進行スル事ニナツタノデアリマス是亦海運ノ當業者ガ一致結束シタコトニヨリマスル蘭印ノ屈服ヲ如實ニ示スモノデアリマス前述ノ陶磁器製造家ノ團結ト云ヒ又此結會社ノ一致結束ガ如何ニ效果的デアリマシタカヲ益々明カニスル譯デアリマス。

斯樣ニシテ本會商開始トナリマシテ九月下旬カラ團員間ノ輸出入委員ガ開催セラレ或ハ時々主席代表ノ協議會ガ開カレル等デ十月十一月ト會議ハ進行シタノデアリマス此間長岡代表ハ會商ノ爲メバタビヤニ參集シテ居リマシタ各當業者ニ對シマシテ不斷ニ當業者ノ結束ノ必要ナ事ヲ强調サレマシテ特ニ前述陶磁器及海運業者ノ結束堅固ナリシコトガ本會商ニ於キマシテ如何ニ役立ツタカヲ例證トシテ繰返シ繰返シ御話セラレ各當業者ガ常ニ一致結束ノ益々强固ナラン事ヲ教示懇懇サレテ居ラレマシタノデアリマス。

ソシテ長岡大使ハ常ニ大國ノ大使タル威嚴ヲ堅持サレマシテ何處マデモ和蘭ヲ小國扱ヒセラレ和蘭ガ輸入制限セルナラ日本ハ輸出制限スルゾトノ主張ヲナサレテ强硬ニ日本側ニ有利ナル結果ヲ得ラルル樣ニ努力シテ居ラレタ處ガ十月以後ノ會商ヲ見マスルニ和蘭側ハ何故斯クモ

強硬デアリ得ルカヲ調査シマシタガ和蘭側有力者ノ意見ヲ叩イテ見マスルト彼ハ次ノ様ニ答ヘマシタ。

「イクラ日本ノ代表ガ強ガツテモ又日本ニ於テ輸出制限スルゾト脅カシテモ日本ニ居ル和蘭商人ト日本ノ製造家トガ握手シテ居ル以上如何ナル輸出統制行ハルルトモ抜ケ道ガアルカラ恐ルルニ足ラナイ、之ニ反シテ蘭印ノ輸入制限ハ官民一致ノ統制ガ徹底シテ居ルノデ違反等ノ事ハナク絶對安心デアル。云々」

以上ノ様ナ有様デ和蘭側ハ日本ノ代表ニ餘リ敬意ヲ拂ハント云フ様ナ眞意アリマセンシ從ツテ砂糖其他ノ問題モアリマシタガ十二月ニ至リマシテ遂ニ會商ハ和蘭側カラ中止ヲ申出ルガ様ナ不手際デ終了シタノデアリマス而カモ其最後ニ於マシテ日本人側取扱割當トシテ一九三三年二割五分以上ノモノハ二割五分ニ夫レ以下ノモノハ全年ノ實際ノ取扱高ニヨル事トシ結局各商品ノ取扱ハ日本カラ輸入ノ約一割内外ノ平均割當ヲ與ヘマセウト日本代表ニ恩ヲ賣ル様ナ態度デ和蘭代表カラ申渡シマシタ有様デアリマス此申渡ニ對シマシテ日本代表ハ日本品ノ輸入ハ特ニ制限サルル譯デナク和蘭人ノ手デ輸入サレ日本人ノ取扱丈ケ

ガ制限サレルノダカラ此際双方ナイト思ヘ
ニ就テモ別ニ條約トナル様ナ文書ノ交換モシナイデ内心ハ相當不満足
ノ感ジヲ　抱カレナガラ口頭丈ケノ取極ノ挨拶ヲ受ケテハタビヤヲ引
揚ゲラレマシタノデアリマス。

五會商決裂後

十二月下旬大使以下代表首腦部ガ會商現地ヲ引揚ゲラレマシタ後ノ現
地ノ狀勢ハ邦商ニ對スル取扱割當ハ二割五分確保サレタ云々ト云ヒマ
スガ實質ハ一割五分ニシカ當リマセン斯ノ様ナ有様デハ邦商ハ全ク施
スベキ策ガナクナル丈第デアリマス要スルニ從來即一九三三年日本人
ノ取扱ハ四割内外デアリマシタモノヲ一割五分即三分ノ一ニ極減サレ
ル事ナル譯デアリマスノデ店ノ營業維持ハ勿論困難デアリマスシ益
々苦境ニ陷ル譯デ結局手持商品ノ賣喰ニヨリ喰ヒツナグヨリ外ナイ狀
態ニ置カルル次第デアリマス。

而モ其前途ニ光明見出ス當ハナク賣リ喰ヒノ喰ヒ續ギハ自ヅト限度ガ
アリマシテ永ク保チ得ルモノデハアリマセン永クテ一年カ二年ノコト

デアリマス。代表ヲ頼リニシテ居リマシタ在留同胞ノ生存權ハ全ク危地ニ曝サレタ様ナ事態トナツタ譯デ在留同胞ハ今後如何ニ善處シヨウカト個人様ニナリ種々會合協議ヲ重ネマシテ何カノ打開策ヲ見出ス事ニ奔命シタノデアリマス。

以　上

昭和十年二月以後ノ經緯

神戸海運會商

和蘭政府トシテハ一般輸出入貿易ニ於テハ和蘭ハ日本ニ對シ買手ノ立場ニアリ輸入側限令其他蘭商保護ノ方策ニハ既ニ手配ヲ濟マシ其上日本内地ニ於ケル製造家ハ和蘭人ノ味方ナルト共ニ日本政府ノ外交方針又軟弱ナルニハ滿足シ居ラルルモ海運問題ハ日本當業者ノ態度强硬ニシテ一致結束シ居リ而カモ和蘭側ハ三社（月七隻）從來ノ實績ヨリスルモ和蘭側遙カニ劣勢弱味ナル處カラ海運會商丈ケハ國滿ニ且ツ早目ニ纏メ置ク必要ヲ感ジ和蘭側トシテ讓歩的態度ヲ以テ神戸ニ於テ海運會商開催ノコトトナツタ次第デアツタ

然ルニ會商開催ニ先チ用語問題ノモツレガ解ケズ蘭印代表ハ後ニ心ヲ變シタモトヲ拂ツテ引揚ゲ日本側四社ハ日本爪哇運賃同盟ニ離線脫ヲ突付ケテ、モウ之レカラハ實力デ來イト大見得ヲ切リ四月一日カラ共同配船事務所設置、共同戰線ニ立ツコトトナツタガ蘭印側ハ海運會商決裂ノ責ヲ全ク日本ニナスリ付ケテ愈々徹底的ニ對日報復工策ヲ練ル樣ニナツタ。

廣田ハルト長官會見

ソコヘヒヨツクリ個人ノ資格ト云フ振込デ支那カラ姿ヲ見セタノガ蘭印在留七千人ノ活殺ノ權ヲ握ル彼地經濟長官ハルト氏其ノ人デアツタ四月十八日外務省デ行ハレタ廣田ハルト會見ノ結果

A ハルト長官歸國ノ上直ニバタビヤニ於テ日蘭會商ヲ再開繼續シテ圓滿解決ニ達スル樣努力スル事

B 右日蘭會商ガ妥結シタル場合之レヲ日蘭新通商航海條約トシテ締結シ日蘭經濟關係ヲ强化スル事

C 海運會商ハバタビヤ會商ト併行シテ開催シ之レガ圓滿解決ヲ圖ル樣其ノ手續方法協議ノ事

以上ノ三點ニツキ原則的意見ノ一致ヲ見タノデ外相主催ノ歡迎午餐會等催サレ日蘭ノ關係ハドウヤラ前途ニ一縷ノ光明ガ見エタト云フ樣ナ喧傳ガ外務省カラ致サレタ。處ガドウデスハルトハ日本ヘハ政府方面ノ打診ニ來タモノデ其結果ハ矢張リ事ナカレ主義卽チ軟弱ト見テ歸國シタ爲カ在留邦商及ビ邦船ニ對シテ少シモ壓迫ノ手ヲ緩メナイ、蘭印政府ノ輸入制限政策ハ最早ヤ餘ス處ナク徹底サレ露骨ナ蘭商保護ノ割

當制度ガ各商品ニ亘ツテ行ハレ邦商ニ對スル苛酷ナ許可政策ハヤガテ蘭商ノ獨占ヲ示限スルデアラウト憂慮サルル樣ニナツテ來タ。

同盟解消後ノ蒐荷競爭ニ備ヘルタメ邦船側ハ提携強化ノ目的デ共同集荷事務所ヲ設置シテ居タガ蒐荷成績ハ振ハズ一般ニ積荷ハJOJLニ多クシテ形勢益ル惡化スルノミ　デアル。即チ昭和九年日蘭船主間ニ假協定シタ積取率ハ邦船（石原、大阪商船、南洋郵船）六九%、JOJL三一%デアツタモノガ最近（昨年六月）ノ積取率ハ石原二七%南洋郵船一一%大阪商船七%合計四五%ニ對シ蘭船側五五%ニ上リ形勢ハ逆轉シテ居ル。

此ノ原因ハ邦船側ノ足並不一致ニモアルガJOJLガ運賃ヲ引下ゲタ上ニ蘭印ガ自國船保護ノタメ總テ取引ハFOBトシ蘭船指定積ヲ勵行シテ居ル事ガ原因デアル。又和蘭政府ハ蘭商ハ勿論支那商方面ニモ極端ナル干渉ヲナシ果テハ割當許可條件トシテ邦商ヘモJOJL積ヲ強請スル有樣デアツタガ昨年五月廿九日從來ノ輸入制限令ノ全部ニ對シ左記ノ如キ規定ガ追加サレタ。云フ迄モナク自國船保護強化ノ目的ニ出タモノデアル。

「和蘭船ニ對シ何等カ行動アナシタル結果蘭印ト或ル國トノ間ニ於ケル和蘭船ノ重大ナル利益ガ發生セラルル場合蘭印政府經濟長官ハ蘭印總督ノ委任ヲ受ケタル上當該國ヨリ輸入セラルル商品或ハ當該國ヲ原産地トスル商品ニ付キテハ和蘭船ヲ以テ輸送スベキ比率ヲ定ムルノ權限ヲ有ス」

右ノ權能ニヨレバ蘭印經濟長官ハ何時ニテモ蘭印向日本商品ノ大部分ヲ蘭船ノミニヨリテ輸送サセルコトガ出來ル專ニナツタノデアル。又極端ナル方法ガ行ハレタトスルモ蘭印側トシテハ本邦船ガ蘭印各港ヲ出入スル場合蘭印官憲ハ檢査其他ノ手續ヲ故意ニ澁滯セシメテ本邦船ヤ荷主ニ打撃ヲ與ヘルト云フ事モ豫想サルル處デアル。

斯クノ如ク彼ハ勝手ニ法律ニヨリ政府ノ手ニテ保護シテ居ル

德カニ蘭印在留七千ノ死活問題デアル。ソコデ神戸商工會議所ハ通商擁護令發動ノ決議文ヲ政府ニ突ツケタル、日本蘭印貿易協會デモ委員ヲ上京セシメテ外務省其他ニ通商擁護法ノ發動ヲ陳情スル在留民モ代表人物ヲ歸朝セシメルト云フ譯デ形勢ハ日一日危急ニ迫ツテ來ル樣ニナツタ。ハルト長官ノ誠意ガ上ツ面ノミナル事ガ實證セラレ一方蘭印在

留邦人救済ノ窮状ヲ目前ニ見セラルルニ至ツテハ日本政府モ如何ニ事勿レ主義ヲハ云ヒ乍ラ何カ方策ニ着手ノ止ムヲキニ至ツタデアラウ。

南洋海運ノ設立

三月三日ノ日蘭海運會商決裂以來當局ニテアリ乍ラ無爲無策ニテ通セシ我ガ遞信省ニ對シ石原產業ハ本邦船會社ノ不一致ガ遂ニ社ニ乘ゼラレ居ル一部ノ原因ナルヲ指摘シ、通商擁護令ヲ最後ノ切札トスル條件ノ下ニ合同航路會社設立案ヲ提案センガ遞信省ハ之レヲ助ケ舟トシテ歡迎賛成シ遞信省案トシテ四社ヲ勸誘說服シ六月下旬南洋海運設立ノ事トナリ一般會商ト併行シテ海運會商開催ノ準備ニ取懸ル樣ニナツタ。

七月八月中ハ會社設立手續、出資船舶ノ引渡シニ多忙ヲ極メ九月ニ至リ仝社名義ニテ始メテ爪哇航路ニ就航ノ事トナリ一方外務省ノ手ヲ經テ會商問題協議ヲ初メ一般會商ハバタビヤニ於テ總領事對經濟長官、海運會商ハ南海對ヨリモニテ開始シタガ和蘭側ハ何處迄モ古狸ノ根性ヲ現ハシ徒ラニ遷延策ヲ講ズルノミニテ會商中トカ會商準備中トカル口實ヲ得ルノミガ目安ニシテ一方關印ニ於テハ新シク

従業員制限令ヲ發布シ（八月中）

入國制限令ニ於テハ本邦人一年八百人迄ノ入國ヲ許ス如キ譲歩態度ヲ示シ乍ラ他方従業員制限令ニ名ヲ藉ヲテ仲々邦人ノ入國許可ヲ與ヘナイデ在留邦商ニ對シテハ手モ足モ出シ得ナイ壓迫振リヲ示ス様ニナツタ。

其他輸入制限令ハ増發ニ増發ヲ重ネテ或ハ日本商人ニ和蘭品ヤ英國品ノ輸入割當ヤ時期外レノ商品又ハ短時日間ニ輸入スベキ許可等ニヨッテ事實取扱不可能ノ割當ヲ與ヘル有様、是ニ關聯サレテ生ジタ報告ヲスル領事モサル事乍ラ要スルニ和蘭ハ在留邦商ノ一掃ヲ壓策シツツアルハ明カナ事實デアル。

最近蘭印在留邦人ノ現狀

諸制限令ハ遠慮會釋モナクドシドシ連發サレ在留民ハ全クウンザリノ有様、サレバト云ッテ硬論ヲ吐クモノハ日蘭親善ヲ害スルモノトシテ領事館カラニラマレ被我官憲協力シテ制限令適用ニ一段苛酷味ヲ加ヘラレルノデ沈默ノ外ナク全ク去勢サレタ動物ノ様ニ元氣ノナイ事夥シイ。制限令デ邦人輸入商ノ輸入取扱ハ極限サレテ居ルノデ日本人小賣商ハ蘭人輸入商カラ仕入ヲ餘儀ナクサレテ居ル仕入値ハ高値ヲ取引條件ハ嚴重ダカラ利益ハナク支拂ヲ延ベセベ直ク差押破產申請ト來ラルノデ安心シテ商賣ハ出來ナイ。

從ッテ資力ノアル者ハ不利益ナ商賣シテ喰込ミシテ迄東印度ニ居ルヨリ同ジ喰込トナルナラ日本内地へ引揚ゲタ方ガ利口ダト云ッテ段々引揚ゲツツアル有様デ有力ナ在留民ハ減少(化)スル一方デス。

別段ノ貯ヘハナク店舖ノ商品ガ現金出來ナイモノハ仕方ガナイノデ商品ノ賣喰ヒガ永續シナイノハ判リ切ッタ事、在留民ガ騎虎倒シニバタバタト倒レルノハ要スルニ時期ノ問題。

最近爪哇ヨリノ通信ニヨルト爪哇ニ於テ最モ繁昌ノ市場ト云ハルルバンドンニ於テ主ナル邦人小賣商店（東京洋行、櫻洋行、佐藤茂氏、川島商店）ガ店舗家賃未拂ノタメ裁判所ヘ訴訟沙汰ヲ起サレ居リ其他辯護士ノ手ニテ示談中ノモノ十數軒以上アルトノ事。邦人代表商業機關デアル商業協會ハ領事意中ノ人物ノミニヨッテ幹部ヲ占メテ居ルノデ領事ノ許可ヲ得タモノ以外ハ報告セザル譯デ從ッテ領事ノ外務省ニ對スル報告ノ範圍ヲ脫シナイ在留民ノ實情ハ判明シナイ譯デ從ッテ蘭印ノ在留民中ニハ領事ニ迎合スルタメ和蘭ノ制限令ヲ謳歌スル樣ナ不心得者モアッテ日本內地ノ識者ヲ迷ハス樣ナ事モアルガ何レモ前述ノ事情カラ來テ居ル譯デ要スルニ彼我官憲ノ壓迫ニヨリ如何ニ困ッテモ悲鳴サヘモ上ゲ得ラレナイ哀レナ狀態ニ於カレテ居ルノガ在留民ノ實狀デアル。

以上

營業制限條令譯文

昭和九年十月廿三日發令

第一條　本令並ニ今後規定サルコトアルベキ本令細則ヲ施行スルニ當リ

玆ニ謂フ

(イ)「營業」トハ第二條ニ揭ゲタル國營企業ニ非ザル營業並ニ企業ノ全部ヲイフ

(ロ)「長官」トハ經濟省長官ノ意ナリ

第二條　政府令ヲ以テ關係印度ノ全部又ハ一部ニ於ケル或種企業ニ對シ今後規定サルヽコトアルベキ本令細則ヲ適用スル旨制定スルコトヲ得

第三條

一、他ノ法令ニヨリ必要トスル許可ノ外當該政府令施行ノ時ニ於テ現存ノ營業ヲ營ム爲ニハ經濟長官ノ免許ヲ必要トス

二、當該政府令施行後三ケ月以内ニ營業ノ申請アリタル場合ニハ之ガ免許ヲ拒否スルヲ得ズ

第四條

一、當該政府令施行ノ時ニ於テ未ダ存在セザル企業乃至營業ヲ設立センガ爲ニハ經濟長官ノ許可ヲ要ス

二、第三條第一項ニ謂フ營業並ニ前項ニヨリ設立ノ許可ヲ受ケタル營業ヲ營ムモノハ左ノ各場合ニ於テ經濟長官ノ許可ヲ要ス

(イ)營業ヲ擴張シ又ハ經濟長官ニ於テ營業ノ規模若クハ性質ヲ變更スル結果ヲ齎スモノト認ムル他ノ營業方法ヲ採用セントスル場合

(ロ)經濟長官ニ於テ停止セラレタル營業ヲ再ビ開始スルトキ

三、經濟長官ニ於テ設立セントスル營業若クハ營業ノ擴張、營業方法ノ變更、又ハ再開セントスル營業ガ經濟的觀點ニ反スルモノト認メタル可カラサル時ハ本條第一項及ビ第二項ニ關ヲ許可ヲ拒否スルコトヲ得

第五條

一、第三條規定ノ免許及ビ第四條ニヨリ必要トスル許可ノ申請ハ政府令ノ指定スル內務省官吏宛之ヲ爲シ當該官吏ハ政府令ニヨリ定メラレタル規則ニ遵ヒ之ヲ處理スルモノトス

二、申請ニ際シテハ本條令適用ノタメ經濟長官ノ必要ト認ムル事項ヲ申告スベシ

三、經濟長官ノ指定スル期間内ニ前記規定ノ手續ヲ了セザレバ申請ハ無效ト看做ス

第六條

一、免許狀許可狀ハ申請者名義トス

二、經濟長官ハ免許狀及許可狀ノ所持者ニ對シ條件ヲ附スルコトヲ得

三、前項ニ謂フ條件ヲ更ニ左ノ如ク規定スルコトヲ得

A 關印ニ設立サレタル營業ニ使用サレ居ル者又ハ今後使用サレントスル者ノ國籍及右營業ニ必要ナル原料、材料、器具ノ補給狀態

B 使用人ノ勞動條件

C 資本ノ構成

第七條　免許狀又ハ許可狀ノ讓渡ニハ豫メ經濟長官ノ同意ヲ要ス

第八條　許可狀ニハ營業ノ開始、擴張、再開又ハ營業方法ノ變更ノナサルベキ期間ヲ附スベシ

第九條　免許又ハ許可ハ左ノ場合ニ於テ經濟長官之ヲ撤回ス

A 經濟長官ニ於テ賦課セラレタル條件ガ履行セラレズト認ムル時

B 不正ノ申請ヲナシタルガ爲第十四條第一項ノ規定ニヨリ處罰サレタルトキ

C 第七條規定ノ同意ナクシテ譲渡ノナサレタルトキ

D 第八條規定ノ期間ヲ延長ノ理由ナクシテ超過シタルトキ

第十條　本條ニ違背シテ免許ナク第三條第一項ニ謂フ營業ヲ繼續シ之ガ爲本條令ニ基キ必要トスル許可ヲ受クルコトナクシテ新營業ヲ設立シ現存營業ヲ擴張シ營業方法ヲ變更シ停止中ノ營業ヲ再開シ免許狀又ハ許可狀ノ譲渡ニ對スル第七條ノ規定スル同意ヲ得ル事ナクシテ營業ヲ譲渡シタル時若クハ下附ヲ受ケタル免許狀又ハ許可狀ノ撤回セラレタル後尚營業ヲ繼續スル時ハ經濟長官又ハ政府令ノ指定スル官吏ハ當該營業ヲ閉鎖シ之ガ爲ニ使用セラレタル家屋機械器具及補助物品ニ封印ヲ施シ又ハ他ノ方法ニヨリ之ガ使用ヲ停止ス

第十一條　免許又ハ許可若クハ第七條ノ規定スル同意ノ拒否ニ關シテ

ハ該裁決入手後一月以内ニ總督ニ訴願ヲナス事ヲ得

第十二條

一、本條令ノ規定又ハ本條令ニ基ク措置實施ノ爲必要ナル時ハ第六條記載ノ官吏ハ常ニ營業ノ場所及家屋ニ立入ル事ヲ得

二、若シ之ヲ拒絶セラレタル場合ニ於テハ必要ニ應ジ警官ノ援助ニ依リ强力ヲ以テ立入ル事ヲ得

第十三條　本條令實施ニ關スル職務上或ル營業ニ就キ知リ得タル事ハ該職務執行上必要ナル程度以外ニ之ヲ發表スルヲ得ズ

第十四條

一、左ニ記載シタルモノハ一年以下ノ禁　又ハ一萬盾以下ノ罰金ニ處ス

A本條令ニヨリ之ガ爲必要トスル免許ヲ得ズシテ營ム者

B本條令ニヨリ之ガ爲必要トスル許可ヲ得ズシテ第四條規定ノ營業ノ成立、擴張、再開又ハ營業方法ノ變更ヲナス者

C之ガ爲下附ヲ受ケタル免許狀又ハ許可狀ノ撤回セラレタル後第三條及第四條規定ノ營業ノ續行スル者

(カ)第五條ニヨル申告申ニ故意ニ虚偽ノ申立ヲナシ若クハ故意ニ之ガ申立ニ付幇助シタル者

(ヨ)第六條ニヨリ賦課セラレタル條件ヲ履行セザル者

(タ)本條令ニヨリ必要トスル同意ナクシテ營業ヲ讓渡シ若クハ讓渡セラレタル營業ヲ營ム者

(レ)犯罪行爲ヲ組成シタル家屋、機械及器具ハ之ヲ沒收スル事ヲ得

(ソ)罪ヲ犯シタルモノニシテ法人ナル時ハ起訴及判決ハ關印ニ住居ヲ有スル該法人理事ニ對シテ之ヲナシ斯カル理事ナキ時ハ該法人ノ代表者若クハ該營業支配人又ハ監理人ニ對シテ之ヲナスモノトス

五前項ノ規定ハ他ノ法人ノ業務經營者又ハ代表者トシテ法律行爲ヲナス法人ニ對シテモ同樣ニ之ヲ適用ス

第十五條

一、故意ニ秘密保持ニ關スル第十三條ノ規定ニ違背シタル者ハ六ケ月以下ノ懲役又ハ六百圓以下ノ罰金ニ處ス

二、過失ニヨリ同秘密ヲ漏洩シタル者ハ三ケ月以下ノ禁　又ハ五千
盾以下ノ罰金ニ處ス
三、本條ノ罰ハ自己ニ關スル秘密ヲ漏洩セラレタル者ノ告訴ヲ待テ
之ヲ論ズ
四、本條記載ノ處罰事項ハ之ヲ犯罪ト看做ス

第十六條　本條令ノ定ムル犯罪ノ捜査ハ一般犯罪ノ捜査ヲ擔任スル官
吏ノ外政府令ニヨリ指定スル官吏之ヲ擔任ス

第十七條　本條令ノ適用ヲ受クベキ各部門ノ營業ニ關シ專問委員ヲ任
命ス右委員ハ當該政府令ニ定メラレタル本令適用上ノ事項ニ就キ
經濟長官ニ必要ナル進言ヲナスモノトス

第十八條　本條令ノ實施方法竝ニ之ガ實施ニ要スル經費支辨ノ爲關係
當人ヨリ徴收スベキ金額ニ關スル細則ハ政府令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條
一、本條令ハ之ヲ「一九三四年營業制限條令」ト稱ス
一、本條令ハ公布ノ翌日ヨリ實施シ一九三七年十月十六日ヲ以テ終

過渡規定

第三條第二項ノ規定ハ該條項ニ定メラレタル期間内ニ免許申請ヲナシタル營業ニ對シテハ右申請ニ對スル裁決アル迄之ヲ適用セズ

（譯者註、原文ニハ「第二條第一項」ト記載シアルモ之ハ誤謬ナルニ付近ク官報ヲ以テ「第三條第二項」ト訂正サル筈ナリ）

外國人從業員入國制限ニ關スル非常時緊令内容

外國人從業員入國制限ニ關スル
非常時條令內容

蘭領印度法令書一九三五年第四二六號ヲ以テ發令去ル八月二十四日ヨリ實施サレタ非常時外國人從業員入國制限令ハ次ノ通リ

第一條

一、本令ノ適用ニ當リテハ次ノ如ク解釋ス

イ、勞役

一、如何ナル種類タルヲ問ハズ且ツ賃銀又ハ其他ノ金錢若クハ物品ニ依ル給付ヲ受ケルト否トニ拘ラズ他人ニ傭ハレテナス勞役

二、傭主ノ事業中請負作業者トシテ請負者自身並ニ其助勢者ニ依リテ爲サレタル勞役

ロ、傭主

總テ自然人、法人又ハ公共團体ニシテ他人ヲシテ勞役ヲ爲サシムル者、但シ此中ニハ外國ニアル傭主ノ代理人又ハ代表者ヲモ含ム

二、本令ハ歐洲人ノ取扱ヲ受ケザル外國人ノ勞役並ニ國家ノ爲メノ勞役ニハ之ヲ適用セズ

第二條

一、本令實施ノ日以後ニ初渡航ノ者並ニ一年以上關領印度外ニ去リ居リタル者ニシテ「入國許可條令」（註、一九一六年法令書第四七號）ニ據リテ新タニ入國許可セラレタル外國人ニシテ司法省長官ノ文書ニ依リ許可ナクシテ勞役ヲ爲サシムルコトヲ禁ズ

二、許可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得、許可ノ有效期間ハ許可書ニ規定シ且ツ延長スルコトアルベシ

三、條件ヲ遵守セザル場合ハ途中許可ヲ取消スコトヲ得

四、新規許可願又ハ期間延長願ガ却下サレタル場合ハ却下通告ノ日ヨリ一ケ月以內ニ總督ニ之ヲ請願スルコトヲ得

第三條

一、第二條規定ニ違反シテ勞役ヲ爲サシメタル者ハ一ケ月以內ノ禁錮又ハ五百盾以下ノ罰金ニ處ス

二、前回ノ違反申渡ガ確定セル後二ケ年以內ニ再ビ同樣違反行爲アリタル場合ハ前項罰金ノ外ニ更ニ三ケ月以內ノ禁錮ニ處ス

第四條

一、本條ニ處罰規定セル違反行爲ガ法人ニヨリテ行ハレタル場合ハ順位追求ヲ行ヒ、闌印在住ノ取締役（理事者）及監査役ニ對シテ罰ヲ宣告ス之等重役不在ノ時ハ該法人ノ闌印内代表者ニ對シテ申渡ス

二、前項規定ハ法人ガ他ノ法人ノ取締役（理事者）監査役又ハ代表者トシテ行動スル總テノ場合ニ之ヲ適用ス

第五條

一、本令ノ遵守ヲ監督シ處罰スベキ違反行爲ノ取調ハ一般處罰行爲取調ノ任ニアル官吏及吏員ノ外勞働監督局官吏モ共ニ之ニ任ズ

二、取調ベニ當ル官吏ハ何時タリトモ其ノ職務執行ニ必要ト認ムル凡ユル書類ノ閲覽ヲ要求スルコトヲ得

三、右官吏ハ本令ニ處罰セラルベキモノト規定セラレ居ル事實ノ嫌疑相當ニアリ且其取調ベニ有利ナル場合常ニ如何ナル場所ニモ立入ルコトヲ得、若シ立入ヲ拒絶セラレタルトキハ必要ナル場合强力ヲ用ヒテモ之ヲ決行スルモノトス

四、該官吏ハ住宅ニ對シテハ其居住者之ヲ拒絶セル場合ハ當該地方長官又

（其指定セル官吏ガ特ニ其爲ニ發セル命令書アルニ非レバ侵入スルコトヲ得ズ、此ノ侵入ヲ決行シタル場合ハ二晝夜以内ニ之ガ報告書ヲ作成シ其中ニ侵入ノ時刻並ニ目的ヲ記入スルコトヲ要ス

第六條

本令ニ處罰スベキモノトシテ規定セラレタル事實ハ「違反行爲」ト看做ス

第七條

本令ノ施行及履行ニ必要ナル細目ハ別ニ政府令ニ依リ之ヲ規定ス

第八條

本令ハ土人裁判官ノ支配ヲ受クル直轄地（註、保護地ニ非ザル）内ノ土人ニモ之ヲ適用ス

第九條

一、本令ハ發布ノ翌日ヨリ實施ス

二、本令ハ一九三八年一月一日迄效力ヲ有シ「非常時外國人從業員入國制限令」ト稱ス

以上

倉庫營業制限令

（一九三五年三月二十日公布）

第一條

本政府令適用ニ當リ

A 倉庫業トハ貨物保管空地面積合計五十平方米以上ノ倉庫ニ入レラレタル貨物ノ通關、保管、加工、秤量、檢才、稅關取扱、金錢貸借、積付作業持參人式 Dock-warrant ノ發行又ハ記名式貨物證リ證ノ發行等附帶業務ノ如何ヲ問ハズ凡ソ舟舟若クハ其他何等カノ方法ヲ以テ航海船舶ニ積卸サレ又ハ同船ニ積込マルル貨物（商品）ノ一時的保管又ハ保護等ヲ行フ各地ノ營業ヲ謂フ

B Godown トハ貨物ノ保管ニ必要ナル設備ヲ有スルカ又ハ其目的ニテ實際使用サレ居ル總テノ建物上屋、倉庫、敷地又ハ造作ヲ謂フ

C 貨物保管空地合計面積トハ當該長官ノ判定ニ基キ倉庫業ヲ營ム者ノ所屬全倉庫ノ建坪數ノ合計ニシテ平方米ヲ以テ示サレタルモノヲ謂フ

第二條

「一九三四年營業制限令」ハ之ヲ關印全土ノ倉庫業ニ適用ス

第三條

一、本令施行前既ニ存在シ居タル倉庫業ヲ營ンガ爲ニ必要ナル免許證下附申請書ノ樣式又ハ新ニ倉庫業ヲ營ンガ爲メ若クハ既存ノ倉庫業ヲ擴張シ又ハ一旦中止セル倉庫業ヲ再ビ開業シ若クハ新規ノ營業方針ヲ採用センガタメニ必要ナル許可證ノ下附申請樣式ハ當該長官ニ之ヲ定ム

二、右申請書ニハ當該長官ノ滿足スル樣提出來ル限リ同申請書ノ正當ナルコト並ニ記載事項ノ正確ナルコトヲ補足スルニ必要ナル證據物件及ビ署名セル申告書ヲ添附セザルベカラズ

三、上記ノ申請書並ニ證據物件及申告書ハ倉庫主又ハ其代理人ニヨリ爪哇マヅラニアリテハ副理事官ニ提出シ、外領地ニアリテハ當該倉庫所在地ノ地方長官ニ提出セザルベカラズ

四、前項記載ノ諸官吏ハ一九三四年營業制限令第五條第三項ニ定メラレタル期間內ニ必要材料全部ノ提出アリタル場合ハ右申請書並ニ夫レニ附隨セル書類ニ自己ノ意見ヲ書添ヘ當該長官宛發送ノ取計ヒヲナスベシ

五、前項ニ述ベタル申請書其他ノ取計ヒハ爪哇マヅラニアリテハ理事官之ヲ行ヒ王領地ニアリテハ知事之ヲ行ヒ外領地ニアリテハ各區長及ビ地

方長官之ガ取締ヲナス

第四條

一、免許證又ハ許可證ノ讓渡許可願ハ其所持人ヨリ書面ヲ以テ第三條第三項ニ述ベタル當局者ノ手ヲ經テ必要ナル證據物件ト共ニ當該長官宛提出スベシ

二、右許可願ハ第三條第四項及ビ第五項ニ規定シタル免許證申請書又ハ許可申請書ノ場合ト同樣ノ方法ニテ取行ハルベシ

第五條

免許證並ニ許可證面ニハ左記諸點ヲ明記サルベシ

A 貨物保管地全部ニ於ケル營業高

B 營業方針ノ特色

C 營業中止トナリタル事情

第六條

一、「一九三四年營業制限令」第三條第四條第七條記載ノ免許證、許可證認可證並ニ申請書、請願書ニ對スル棄却決議書及ビ免許證、許可證ノ回收決議書ハ第三條第五項並ニ第三項ニ述ベタル當局者ノ手ヲ經テ當

事者ニ送附サルベシ

二、當該長官ノ定メタル方法ニヨリ出來ル限リ免許證並ニ許可證記載事項ガ倉庫業ノ實情ト合致シ居ルヤ否ヤニ就キテ取調ヲ行ケベシ

第七條

一、「一九三四年營業制限令」第十條ニ基ク倉庫業ノ閉鎖ハ其閉鎖方法ヲモ規定シアル當該長官ノ意思ニ基ク決議書ヲ以テ之ヲ命ゼザルベシ

二、第三條第三項ニヨリ任命サレタル當局者ハ前項ノ決議施行ノ任ニ當ル

第八條

一、「一九三四年營業制限令」第十七條ニ述ベタル專門委員會ノ委員長並ニ其會員ハ當該長官之ヲ任免ス

而シテ右委員會ハ何レノ場合ニ於テモ會合スルモノトス

一、倉庫業專門家　少クトモ二名

二、船會社代表者　少クトモ一名

二、許可證ノ申請アリタル毎ニ又　長官其必要アリト認メタル場合當該長官又ハ其代理人ハ書面ヲ以テ專門委員會ノ意見ヲ徵スベシ

三、當該長官ハ許可證申請ニ關スル委員會ノ審議意見書ノ提出期間ヲ規定

スルコトヲ得

第九條

一、本令施行ニ伴フ經費ヲ支辨センガタメ貨物保管空地合計面積一千平方米以下ノ場合ノ免許證又ハ營業再開許可證一通毎ニ年十圓ヲ納付セシメ貨物保管空地面積合計一千平方米以上ノ場合ニ於テハ二十五圓ヲ納附セシム

二、營業擴張許可證ノ下附アリタル場合ハ夫レト同時ニ前項ニ示サレタル區別ニ準ジ一年納入額ヲ決定セルベシ

三、前項ニ該當スル金額納付ノ時期並ニ支拂方法ハ當該長官之ヲ定ム

四、上記金額ノ割拂ハ一九三四年營業制限令第九條Aニ規定サレタル條件ノ下ニ於テナサルベキモノトス

第十條

一、本令ハ之ヲ「一九三五年倉庫營業制限令」ト稱ス

二、本令ハ之ヲ公布ノ翌日ヨリ實施ス

以上

第二大倉庫營業制限令

昭和十年七月十二日官報三一三號

一九三五年第二次倉庫營業制限令

「一九三五年倉庫營業制限令ヲ廢止シ次ノ如キ法規ヲ定メ之ヲ「一九三五年第二次倉庫營業制限令」ト稱ス

第一條

本政府令適用ニ當リ

A倉庫業トハ經濟省長官ニ於テ每航船舶ヨリ陸揚サレ又ハ積込マルル商品ノ每月ノ總量ガ五十噸以上ニ及ブ一ツ以上ノ倉庫業ヲ綜合的ニ營ム各地ノ營業又ハ營業部門ノ集合体ナリト認ムルモノヲ謂ツ但シ經濟省長官ニ於テ專ラ自己ノ貨物ノミヲ取扱フ倉庫業務ノ一ツ以上ヲ營ムモノト認ムルモノハ之ヲ倉庫業ト看做サズシテ商取引上ノ業務ナリト看做ス

B倉庫業務トハ商品ノ取扱ニ關シ經濟省長官ノ認ムル次ノ如キ總テノ作業ヲ謂フ

陸揚、船積、入庫、保管、出庫、輸出、入、手續、看貫、檢才、見本摘出、檢品、荷造、包裝替、配達、海上運送、陸上運送

O 許可證（ toelastbare Capacitelt ）トハ
一定ノ倉庫業ヲ經營スルニ當リ經濟省長官ニ規定セル所ニ準據シ倉庫業ノ取扱數量ヲ其性質、容積ノ如何ニ從ヒ噸數ニテ示セル一定商品ノ毎月ノ數量ヲ謂フ

D TON（噸）トハ商品一千キログラムヲ謂ヒ其ハ單位重量ガ一噸以上ナル場合ニシテ若シ單位重量ガ一噸以下ナル場合ハ一立方米突ヲ謂フ

第二條

「一九三五年營業制限令」ハ之ヲ蘭印全土ノ倉庫業ニ適用ス

第三條

一、本令施行前既ニ存在シ居タル倉庫業ヲ營マンガタメニ必要ナル免許證ノ下附申請樣式並ニ新ニ倉庫業ヲ營マンガ爲若クハ既存倉庫業ヲ擴張シ又ハ一旦中止セル倉庫業ヲ再ビ開業シ若クハ新規ノ營業方法ヲ採用センガ爲ニ必要ナル許可證ノ下附申請樣式ハ經濟省長官之ヲ定ム

(二)右申請書ニハ當該長官ノ滿足スル樣出來ル丈ケ仝申請書ノ眞正ナルコト並ニ記載事項ノ正確ナルコトヲ補足スルニ必要ナル證據物件及ビ署名セル申告書ヲ添附セザルベカラズ

(三)前項ニ謂フ申請書並ニ證據書類及ビ申告書ハ倉庫業主又ハ其ノ代理人ニヨリ爪哇マヅラニ在リテハ副理事官ニ提出シ外領地ニ在リテハ當該倉庫ノ所在地若クハ其ノ設立サレントスル地方長官宛提出スベシ

(四)前項記載ノ當局者ハ一九三四年營業制限令第五條第三項ニ定メラレタル期間内ニ必要ナル材料金部ノ提出アリタル場合ハ自己ノ意見ヲ書添ヘ右申請書並ニソレニ附隨セル書類ヲ經濟自長官宛送附ス

(五)前項ニ謂フ送附ノ取扱ハ爪哇マヅラノ政府直轄地ニアリテハ理事官自治領ニアリテハ知事之ニ當リ外領地ニアリテハ州長官若クハ地方長官之ガ取纏ヲ行フ

第四條

(一)免許證及ビ許可證ノ讓渡許可願ハ其ノ所持人ヨリ書面ヲ以テ第三條第三項ニ謂フ當局者ノ手ヲ經テ右許可願ノ眞正ナルヲ立證スルニ必

要ナル證據書類ト共ニ經濟省長官宛提出スベシ

(二) 免許證及許可證ノ讓渡許可願ハ第三條第四項並ニ第　項ニ述ベタル
ト同一方法ニテ取扱ハルベシ

第五條

經濟省長官ガ樣式ヲ規定セントスル免許證並ニ許可證面ニハ特ニ左
ノ諸點ヲ記入サルル可シ

A 各許可區別ニ示サレタル營業品
B 特色アル營業方法並ニ企業形態
C 營業ノ全部又ハ一部ガ中止トナリタル場合ノ營業狀態

第六條

(一) 一九三四年營業制限令第三條、第四條、第七條ニ關フ免許證認可證
(二) 經濟省長官ノ定メタル方法ニ從ヒ免許證並ニ許可證ニ記載サレタル
事項ガ倉庫業ノ實情ト合致シ居ルヤ否ヤニ就キ出來ル限リ定期ノ調
査ヲ行フ

第七條

第七條

[illegible]

(二) [illegible]

(一) 一九三四年營業制限令第三條ノ第四條ノ第十條ニ關シ[illegible]

第六條

[illegible]

第七條

[illegible]

(二) [illegible]

(一) 一九三四年營業制限令第十條ニ基ク倉庫業ノ閉鎖ハ經濟省長官ノ發動スル決定書ヲ以テ之ヲ命セラルヘシ

而シテ右決定書中ニ同時ニ閉鎖施行ノ方法ヲ規定サル可シ

(二) 第三條第三項ニ指示サレタル當局者ハ前項ニ謂フ決定書ノ施行ノ任ニ當ル

第八條

(一) 一九三四年營業制限令第十七條ニ謂フ專門委員會ノ會長並ニ委員ハ經濟省長官之ヲ任免ス

但シ一應委員會ニ於テ審議スベシ

一、倉庫業專門家　二名以上

二、船會社代表　一名以上

(二) 經濟省長官ハ許可證申請書一通毎ニ且ツ又必要ト認メタル場合文書ニヨリ右委員會ノ意見ヲ求ムルモノナリ

(三) 經濟省長官ハ許可證ノ申請ニ關シ委員會ノ意見書ノ提出サル可キ期間ヲ定ムル事ヲ得

第九條

(一)本法令施行ニ伴ヲ經費ヲ支辨センガ爲メ
最高許可量月一千屯若クハソレ以下ノ免許證又ハ新規營業開始若ク
ハ休止中ノモノヽ、再開許可證一通毎ニ年十屯ヲ納入シ
最大許可量月一千屯以上ノ場合ハ年二十五屯ヲ納入スベシ

(二)若シ倉庫業指張ノ許可アリタル場合ハソレト同時ニ前項ニ示サレタ
ル區別ニ準ジ新ニ年納入額ヲ決定サルル可シ

(三)前項ニヨリ課セラレタル金額ノ納付時期及支拂方法ハ經濟省長官之
ヲ定ム

(四)右金額ノ過當ナル時期ニ於ケル拂込ハ一九三四年營業制限令第九條
Aニ謂フ條件中ニ含マレ居ルモノト承知スベシ

註

一、第九條A一經濟省長官ニヨリ賦課セラレタル條件ヲ履行セラレズ
ト認メタル場合免許又ハ許可ヲ撤回ス

第十條

暫定規定

本令施行期日ニ就キ何等決定ナカリシ一九三五年倉庫營業制限令（官

報一〇七號參照）ニ基キ提出サレタル申請書若ク（請願書ハ第三條第三項ニ基キ提出サレタルモノトシテ掲記サルル可シ）

(二)本政府令ハ公布ノ翌日ヨリ施行ス

本政府令ハ閣印官報ヲ以テ公布ス

（一九三五、七、一二、公布）

三分の三を以て一個とす

第一〇十個を以て一組とす

一組に満たざるものは一個を以て一組とす

（二）本邦向け一ダースを以て一個とす

本邦向け一個は五ダースを以て一組とす

（三）

ツツH-67